

編集 後記

2024年1月より編集委員を務めております、北海道大学大学院歯学研究院の岩崎正則と申します。

本年1月の札幌は、21年ぶりとなる積雪1メートル超えの記録的な大雪に見舞われました。公共交通機関の運休が相次ぎ、新千歳空港では約7,000人もの方々が滞留し一晩を明かす事態となったことは、記憶に新しいところです。私自身、ちょうど海外出張を予定していましたが、この交通網の混乱に直接巻き込まれ、冬の厳しさを改めて痛感する経験となりました。

私は北海道の冬の情景に深い愛着を持っておりますが、今回の事態を目の当たりにし、対面での活動を重んじつつも、Webミーティング等のデジタルツールを活用したリスク管理の重要性を再認識いたしました。こうした不測の事態にあっても、公衆衛生や医療の最前線で地域の健康を守るために尽力されている皆様に対し、心より敬意を表します。

さて、今号(第73巻第4号)には、原著4編、公衆衛生活動報告2編、資料1編の計7編が掲載されています。

野藤らの論文では、和光コホート研究のデータを用いたクラスター分析により、高齢者の就労ニーズを類型化しており、多様な希望を踏まえた就労機会の創出やマッチングに向けた重要な知見が報告されています。加藤らの論文では、勤労者を対象に健康関連QOL(HR-QOL)、メタボリックシンドロームの状況、および生活習慣の関連について検討されており、生活習慣の改善を通じたHR-QOL向上の可能性が示されています。射場らの論文では、近年注目を集めるPHR(Personal Health Record)サービスの利用に関わる因子と効果についてアンブレラレビューが行われ、機能の多様性や各アウトカムに対するエビデンスが整理されています。池田らの論文では、同一健康保険組合の従業員を対象とした調査から、勤務形態の違いによる生活習慣や改善意欲の差が報告されており、勤務形態を考慮した個別化された保健指導の必要性が指摘されています。助友らの論文は、実用的な疾病予防・健康づくりサービスの導入を見極めるためのチェックリスト開発に関する報告であり、アクションリサーチに基づいた多角的なステークホルダーとの合意形成プロセスが明らかにされています。千葉らの論文

次号予告(第73巻・第5号)

原著

後期高齢者の質問票および基本チェックリストにおける健康リスク者と新規要介護認定発生との関連……………光武誠吾, 他
紙巻きタバコ喫煙者の喫煙および禁煙試行の動向……………萩本明子, 他
小中学生における親子関係と自尊感情との関連: 家庭の経済状況とヤングケアラーの視点から……………山崎貞一郎, 他
雇用形態・家族構成と栄養素摂取の関係……………阿部 彩, 他
日本人女性における月経時のタンポン使用実態……………西尾七海, 他

公衆衛生活動報告

「まちづくりにおける健康影響予測評価(HIA)チェックリスト日本版」の開発と実践……………松本一希, 他

資料

自治体における「食育における歯科口腔保健の推進」に関する研究: 計画策定と相互に関連した目標の設定状況……………安藤雄一, 他

では、地域の飲食店においてナッジの枠組みを活用し、栄養バランスに配慮した食事提供と情報発信を行った介入研究の成果とともに、メニュー選択に関連する要因が報告されています。吉岡らの論文は、全国の都道府県における健康増進アプリの導入実態を調査した資料であり、機能の整理とともに、今後のICTを活用した自治体の健康づくり施策の検討において大変参考となる内容となっています。

編集委員として、本誌に投稿いただいた研究者・実務家の皆様に最善のサポートができるよう、私自身も日々研鑽を積んでまいり所存です。本誌がさらに充実したものとなるよう、皆様からの活発なご投稿を心よりお待ちしております。

(岩崎正則)